

本 賞

ルナ・クバーナ (ビッグバンド)

入善町を中心に、主に新川地区で活動しているビッグバンドです。

ルナ・クバーナというバンド名は、『キューバの月』という意味で、結成当初はラテンや歌謡曲の演奏をしていました。最近では、スウィングジャズを中心に演奏しています。

昭和47年（1972年）に結成し45年の長きに渡って、地道に、明るく、楽しく、地域と一緒に活動をしています。そして基本的には、お金はもらっていません。

8月に黒部市コラーレで開催されている「24時間ぶっとおしライブ」や11月に開催される「入善コスモホール入善音楽祭」等のイベントにも積極的に協力参加させて頂いております。コラーレは20回以上、コスモホールはオープンからずっと、30回以上演奏しております。

バンドの人数は現在20人程で、結成時よりは少なくなっていますが、バンド内には夫婦もおられたり、親子で演奏しておられたり、真剣な練習や演奏の中にも和気藹々とした雰囲気のあるバンドです。





40周年特別賞

八尾 とおる 氏 (俳人・句会主宰)

昭和6年生まれ87歳で、俳句歴66年の間に各種句会の指導、俳誌「荒海」選者等を歴任し、新川地区(特に黒部市)の俳句の普及に貢献。富山県俳句連盟理事、富山県現代俳句協会副会長などを歴任し、富山県下の俳句の振興に多大の功績をあげられています。

また、地元の小学校などの俳句教室での指導、公民館活動での俳句指導など数えきれない実績を上げておられ、平成15年に俳句雑誌「峡谷」創刊主宰となり、いままでに指導して来た俳句関係者を結集して、俳句を通じた地域文化の普及に貢献されています。

2018年11月4日のねんりんピック俳句交流大会に企画立案から参加されて440余名の参加という大成功に終わった大会の功労者です。

現在は、黒部市詩の道句集事業選定委員長として活躍中です。教育文化の他に自治や福祉の分野でも活躍し、旧宇奈月町表彰(教育文化功労)黒部市表彰(自治功労・教育功労)黒部市表彰(社会福祉功労)の受賞歴を有されます。

自句集『ははこいし』『父恋慕恋』『菩提樹』『峡谷』を刊行されています。



40周年特別賞

NPO法人 米蔵の会

地元の有志らが2007年「米騒動を知る会」を発足。翌年に「NPO法人米蔵の会」（代表：慶野達二）に移行した。

米蔵の会では、地元研究者たちが講演するフォーラムを20回余り開催し、講演録「米騒動を知る」を上梓した。また、当時の状況を知ってもらおうと、メンバーの大成勝代さんが執筆した短編小説「浜に立つ女たち」の朗読会を県内で開催している。

2018年7月、米騒動から100年を迎えた。この機会にドキュメンタリー映画「百年の蔵」を制作した。これまで語り継がれることのなかった米騒動は、今日の民主主義のきっかけになった民衆運動として見直されてきたが、この史実を改めて地域の誇りとして後世に伝えていきたいと映画制作を進めた。7月、8月に、新川文化ホールや、北日本新聞ホールで上映会を開催した。

地元の高校生が米騒動をめぐって地域の自然や人々を訪ねながら、新たな発見をしていくという内容で、この冬から全国を回る。



地域社会賞

魚津八幡宮氏子青年会

魚津八幡宮氏子青年会は、毎年9月中旬に行われる献灯神輿まつりの担ぎ手として、大町地区西側の12町内の代表で構成されています。江戸時代中期より続く伝統行事の継承と地域発展を願い、氏子青年会が組織されています。自らの親交を深めながら、地元保育園などにも祭りの楽しさを伝える活動を行っています。また、祭り神楽と呼ばれる笛太鼓の囃子手の育成にも長年寄与され、魚津市内の多くの地域に波及しています。

魚津八幡宮の祭礼は、他の地域同様の巡行神輿でしたが、1829年（文政12年）の「八幡騒動」により加賀藩に神輿を没収され、明治初頭に本格的な祭り再興に及ぶまで、封印されていました。当時の祭りの巡行を願った没者を敬うとともに、地域の人々が一丸となり、祭りのできる喜びを若者の荒々しさや力強さで体現したものとされています。

現在も氏子青年会の皆さんの活動で、祭りの素晴らしさを伝授され、地域の絆を大切に続けておられることに敬意を表し、今後の活躍と継承に期待するものです。



奨励賞



七澤菜波さん (書家・グラフィックデザイナー)

七澤菜波さんは、朝日町出身で、書家・グラフィックデザイナーとして、共同通信社の会誌の表紙を担当するなどアーティストとして活躍。

また、国内外において書と音楽がコラボレーションしたパフォーマンス活躍を行うなど、日本の伝統文化の新たな世代への浸透を目指し、勢力的に取り組んでいる。そのような活躍の中、新川地域の発展にも力を注ぎ、次のような地域の発展に繋がる取組を行っている。

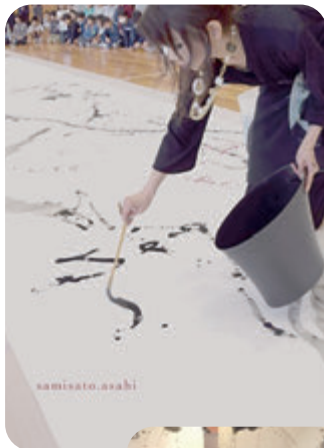
①平成29年4月、宇奈月温泉の「宇奈月スパマラソン」がより一層盛り上がるよう、宇奈月温泉や峡谷の大自然をイメージした「横断幕」をデザイン。これを東京宇奈月会を通じ、大会事務局に寄贈。毎年、同マラソンのスタート地点に掲げられ、大会の発展に貢献。

②朝日町さみさと小学校で、朝日町の山と海を表現した書道パフォーマンス「ひかるさみさと」の実演や、朝日ふるさと美術館において、故郷の原風景を表現した「山」「海」「心」や「富山望郷」などの作品を展示した個展を開催するなど、故郷の子供達の教育や文化向上を応援。

③石田の「蔵」をはじめ、地域店舗のデザインを多種製作するなど、自然と景観が織りあったまちづくりにも大きな貢献を果たしている。

上記をはじめ地域の発展に寄与する種々の活動行っておられます。また、2018年11月にはシンガポールで個展を開催され「墨の中に息づく森羅万象」を世界に広めておられます。

さみさと小学校にて



朝日町ふるさと美術館でのパフォーマンス



朝日町ふるさと美術館での展示風景



シンガポールでの個展パフォーマンス

奨励賞

入善ラーメンまつり実行委員会

入善町商工会青年部を中心とした実行委員会は、「入善ラーメンまつり」を企画・運営し今年
の2月で第18回を数えます。

真冬の屋外イベントとして、今では2日間で3万5千人以上を集める一大イベントとなり、入
善町の人口(約2万5千人)よりも多くの人を集めていると言われている。

毎年、全国より魅力ある出店者を選定・誘致し、交通整理や会場運営まで全て会員が行う手作
りイベントとして、富山県観光公式サイト「とやま観光ナビ」の県内イベント人気ランキングで、
新川地区第3位(第1位は宇奈月温泉雪上花火大会、2位は冬の〇〇魚津)と言う人気を得ています。

これも、一致団結して街を盛り上げようとする青年たちの活動を今後も継承され、地域発展に
寄与されるよう期待いたします。



青少年育成賞



中瀬 真知子 さん
(若菴道場指導者)

中瀬真知子さんは平成21年4月、黒部市若栗で若菴道場を立ち上げ、子供たちに空手道の指導に当たっている。中瀬さんは全日本空手道連盟の4段、日本体育協会公認の空手道上級指導員ほかの資格保持者であるが、選手としても富山県空手道選手権大会の形の部で優勝したほか、日本スポーツマスターズの空手・形の部で毎年のように上位入賞するなどの戦歴の持ち主である。

中瀬さんが若菴道場を立ち上げたのは、若栗地区に新しい公民館が落成したのを機に児童の学童保育の一環として空手の指導を地域から要請されたからで、黒部市のみならず魚津市や入善町からも多数通っている。

子供たちの成績も富山県小中学校空手道選手権大会で優勝したほか、平成27年に北信越小中学校空手道選手権大会で優勝、29年には全国大会で個人と団体の組手で5位入賞するなど全国レベルの成績を残している。

中瀬さん自身が空手を始めたのは、空手を習っていた息子が小学4年の時、興味を抱いて一緒に習い始めたもので、今年で20年になる。今、週3回の練習に60名余の児童が通っているが、中瀬さんは礼に始まって礼に終わる空手道の精神が児童の心身の成長を助けることを願っている。

2020年東京オリンピックで空手が正式種目になったことを受けて、空手への関心も高まると思われるが、来年10周年を迎える若菴道場の錬成に情熱を傾ける中瀬さんの努力は地域発展賞に相応しいものと思います。



新人賞



田中笑伊さん (日本女子ラグビーフットボール選手)

田中笑伊選手（日本体育大学1年・魚津市立石出身）は、2018年8月にジャカルタで開催された「第18回アジア競技大会 ラグビーフットボール競技」に日本代表『サクラセブンズ』として出場、日本女子ラグビー初のアジア競技大会 金メダル獲得に貢献した。

田中選手は、次兄の影響で小学校2年生の時に吉島ラグビースポーツ少年団に入団。男子メンバーと共に、トレーニングに励んだ。タグラグビーの全国大会にも3年連続出場し、6年生の時には、主将としてチームを引っ張った。

高校からは、地元を離れ、國學院大学栃木高校のラグビー部に所属。2年生の時、女子セブンズ日本選抜として、海外遠征などに参加。3年生の時には、「全国高校選抜女子セブンズ」で優勝し、大会MVPを獲得した。

また、日本代表『サクラセブンズ』のメンバーに選出され、ワールドラグビー女子セブンズシリーズ北九州大会でデビューを果たした。

2018年4月からは日本体育大学ラグビー部女子に所属しており、日本代表の強化に向けた、ほぼ1年中合宿という厳しい練習にも精力的に取り組んでいる。

田中選手のポジションはバックスで、持ち味はスピードと冷静な判断力であり、今後に期待。2020年東京オリンピックでメダル獲得を目指す田中選手にエールを送りたい。



新人賞



元野 里音・響 姉弟

姉の里音さんは、現在富山第一高校3年生。小学4年生からモーグルを始め、入団3週間後には県大会で優勝するが、5年生の時に前十字靭帯を断裂。その後3年間はスキーは愚か運動すら出来ない辛い日々を送る。しかし、中学2年でモーグルに復帰するや本領を発揮し、高校1年生の冬に、ながの銀嶺国体で見事優勝を果たした。同年の全日本選手権（五輪選手もいる中）8位入賞という好成績を収めた。

弟の響君は、現在魚津市立西部中学校3年生。姉の影響で小学1年からモーグルを始め、先シーズンのJOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアスキー選手権大会で優勝し、高校生を含んだ総合順位でも3位に入った。今シーズンからはナショナルメンバー男子9名（社会人1名・大学生7名）に最年少で選出された。

モーグルは、魚津市や県大会で勝ち上がっていく競技ではないとのことで、表彰や公的支援もなく、県外選手と比べて待遇の違いを痛感させられるが、昨年、『魚津市で活躍する選手に与えられる桑山賞』を里音さんは授賞された。これまで培った経験と努力の成果が認められたことで、里音さんは大きな喜びと感動を覚えたようだ。これを励みに、今度は自分が沢山のひと々に感動を与えていける様、益々邁進して行くと誓っている。そんな姉の背中を追いかけ、今、追越さんとしている響君は、モーグル競技の日本強化選手にも選ばれている。4年後のオリンピックを見据えるこの2人は、新川地域の発展には欠かせない存在であると確信する。

